

# 研究結果報告書

## 研究結果

本研究は、台湾交通省の観光局および日本観光局（JNTO）のホームページに掲載されている料理名と行事名の日中対訳を分析するものである。本研究では、まず先行研究の翻訳方法を検討し、新たな翻訳方法を提案した。次に、本研究で取り扱う訳語を、この翻訳方法で分類し、訳語の翻訳傾向を分析した。最後に、Vermeer（1996）のスコパス（Skops「目的」）理論と Sperber と Wilson 関連性理論と異文化コミュニケーションなどの観点によって、それらの日本語訳の特徴および問題点を論じた。

観光局のホームページで紹介された日中対訳語の翻訳方法を集計した結果、下記の3点の翻訳傾向が明らかになった。

- （1）料理名の翻訳については、中国語を日本語にする際に、最もよく利用されている翻訳方法の順番は「意識」「漢字移植」「解説」であった。一方、日本語を中国語に翻訳する場合は「意識」「漢字移植」、加筆という順番であった。
- （2）行事名の翻訳については、中国語を日本語に訳するとき、「漢字移植」は最も多く使用された方法で、「意識」がそれに次ぎ、「加筆」は三番目であった。それに対して、日本語を中国語に訳するとき、多用された翻訳方法の順番は「意識」「漢字移植」「部分省略」であった。
- （3）外来語を導入するとき、よく利用された翻訳方法「音訳」は日中対訳のときにあまり使用されなかった。

研究結果を考察すると、「音訳」よりも「意識」と「漢字移植」が日中対訳をするとき多用されたのは、日本と台湾は共に漢字圏にあり、且つ地理的にも近く、共通の食材や相似性の高い行事も多いからであろう。しかし、「漢字移植法」による語訳は誤解される場合がある。したがって、「漢字移植法」で翻訳するとき、その漢字は意味の理解に有用であろうかを考慮すべきと思われる。

キーワード：文化語彙 翻訳 異文化コミュニケーション

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 「異文化コミュニケーションの視点から見た行事名の日中対訳方法」  
「2012年日語教學國際會議」 鄭加禎 東吳大學日本語文學系 2012年4月28日  
(予定)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

鄭加禎、謝嫣文、陳妍伶(2011)「異文化コミュニケーションから見た  
『台湾グルメ』の日本語訳」『東吳外語學報』No.32 Pp.127 - 156

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

『日中両語における料理名と行事名に関する研究-異文化コミュニケーションの観点を中心』  
鄭加禎 尚昂文化事業 ISBN978-986-6020-02-05 2011.10